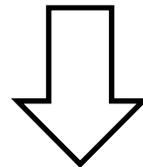


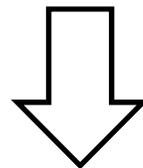
26年度から法令点検開始、各都県メンテナンス会議発足、点検3年目

課題→**予算、体制、技術、国民の理解・協働**



各地でインフラメンテナンスを進める取り組みを実施

1. 技術力向上、点検促進の取り組み(研修・講習会)
2. コスト縮減、創意工夫(直営点検、技術開発など)
3. メンテナンスの必要性を伝える活動(学習会、講演会、地域一体型、パネル展)
4. 多様主体との連携(大学、市民・OBなど)



取り組み事例を共有
各道路メンテナンス会議構成メンバーによる積極的な取り組みの展開を期待

○平成26年度から道路施設の老朽化対策が本格実施されたことを受け、国・地方公共団体が実施している取り組みの好事例を紹介する。

取り組み一覧（予定を含む）

項目	取り組み内容	実施主体	備考
1. 技術力向上、点検促進の取り組み (研修・講習会)	○道路構造物管理実務者研修 ○メンテナンス会議が主催する技術講習会 ○支承講習会 ○トンネル点検講習会	関東地方整備局 1都8県 埼玉県 茨城県	P. 3参照
2. コスト縮減、創意工夫 (直営点検、技術開発など)	○直営点検	(p. 4に記載)	P. 4、5参照
	○橋梁合同点検	千葉県：8市町村	p. 6参照
3. メンテナンスの必要性を伝える活動 (学習会、講演会、地域一体型、パネル展)	○橋梁点検学習会	茨城県、栃木県、群馬県、 埼玉県、千葉県、長野県	p. 7、8参照
	○地域一体型	東京都	p. 9参照
	○パネル展	1都8県	p. 10参照
4. 多様主体との連携（市民）	○市民との協働	千葉市	p. 11参照

(参考)

1. 技術力向上、点検促進の取り組み (研修・講習会)	○地元技術者の技術力向上	福井県	P. 12参照
4. 多様主体との連携 (大学、市民・OBなど)	○大学との連携	新潟県、福井県、岐阜県、 山口県、愛媛県、長崎県	p. 13参照
	○市民、OBとの協働	福島県、岐阜県、長崎県、 静岡県、兵庫県	p. 14、15参照

1. 技術力向上、点検促進の取り組み(研修・講習会)

○各道路メンテナンス会議(1都8県)では、技術講習会を開催し技術力の向上を図っている。
 ○橋梁だけではなく、ニーズに合わせた構造物及び構造の講習会も実施。
 埼玉では支承講習会、茨城ではトンネル点検講習会を開催。

技術講習会(1都8県)

○自治体職員の道路橋点検技術力向上を目的に「座学・現地点検実習」の2部構成で開催。
 ○第1部の座学では、国の職員が講師となり点検に必要な基礎知識(法制度、橋梁構造の基本、損傷の種類等)を学び、第2部の現地点検実習では、橋梁の損傷状況について、高所作業車を利用した近接目視点検やコンクリートの浮きを調べる打音検査、電磁波レーダーを用いた鉄筋探査等を経験。



<実施状況(座学)>

支承講習会 (埼玉県道路メンテナンス会議)

埼玉県道路メンテナンス会議
 大宮国道事務所 管理第二課
 TEL:048-669-1200(代)
 埼玉県県土整備部道路政策課 TEL:048-830-5015

市町村職員を対象とした技術講習会
 ○道路橋の支承について、一般社団法人日本支承協会の方を講師に招き、支承の基礎知識や模型による支承構造の説明、支承の維持管理等について講義



トンネル点検講習会 (茨城県道路メンテナンス会議)

茨城県道路メンテナンス会議
 常陸河川国道事務所 道路管理第二課
 TEL:029-240-4061(代)
 茨城県土木部道路維持課 TEL:029-301-4459

◇トンネル点検講習会
 目的:地方公共団体の職員の技術力育成のため、点検要領に基づく点検に必要な知識・技術等を習得するための研修。
 内容:第1部 講義「道路トンネルの現状と課題」「トンネルの点検・診断・措置」
 第2部 「実際のトンネルにおける点検実習」「高所作業車を用いた近接点検実習」
 ▶開催日:平成28年2月26日(金)
 ▶参加者:茨城県土木事務所・7市町村 計=21名

外部講師: 土木研究所 道路技術研究グループ トンネルチーム上席研究員、主任研究員



<打音検査>



<近接目視点検>



講義状況



高所作業車による近接点検



点検実習(打音点検・クラック調査)

点検状況

2. コスト縮減、創意工夫(直営点検)

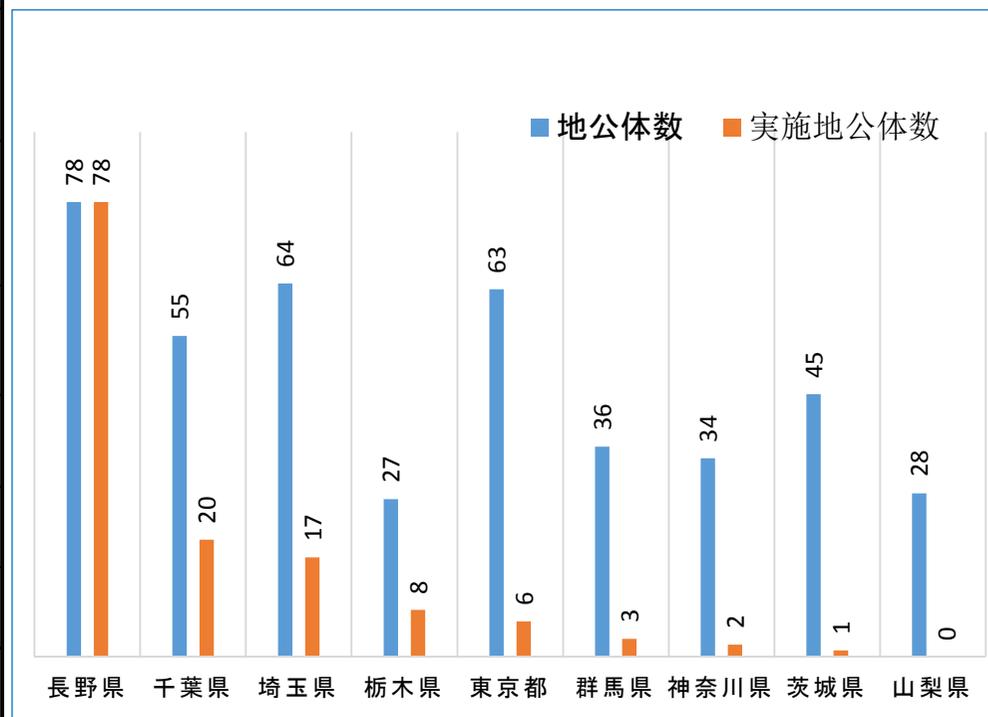
資料⑦

○「直営点検」を関東管内1県、134市町村で実施している(平成27年度末まで)。

直営点検の取り組み実績

都県名	地方公共団体名
長野県	長野県 長野県全市町村(19市23町35村)
千葉県	野田市、鎌ヶ谷市、佐倉市、印西市、白井市、酒々井市、 栄町、富里市、銚子市、東金市、山武市、大網白里市、 一宮町、長南町、いすみ市、南房総市、鋸南町、君津市、 富津市、市原市(16市4町)
埼玉県	川越市、熊谷市、川口市、東松山市、上尾市、越谷市、 朝霞市、桶川市、八潮市、坂戸市、小川町、吉見町、 ときがわ町、皆野町、東秩父村、美里町、松伏町 (10市6町1村)
栃木県	宇都宮市、栃木市、鹿沼市、下野市、上三川町、芳賀町、 日光市、益子町(5市3町) (塩谷町;H28より実施予定、市貝町;H29より実施予定)
東京都	豊島区、板橋区、八王子市、小平市、あきる野市、八丈町 (3市2区1町)
群馬県	桐生市、沼田市、板倉町(2市1町)
神奈川県	小田原市、愛川町(1市1町)
茨城県	那珂市(1市) (守谷市;H29より実施予定)
山梨県	なし

平成27年度までの直営点検の取り組み状況



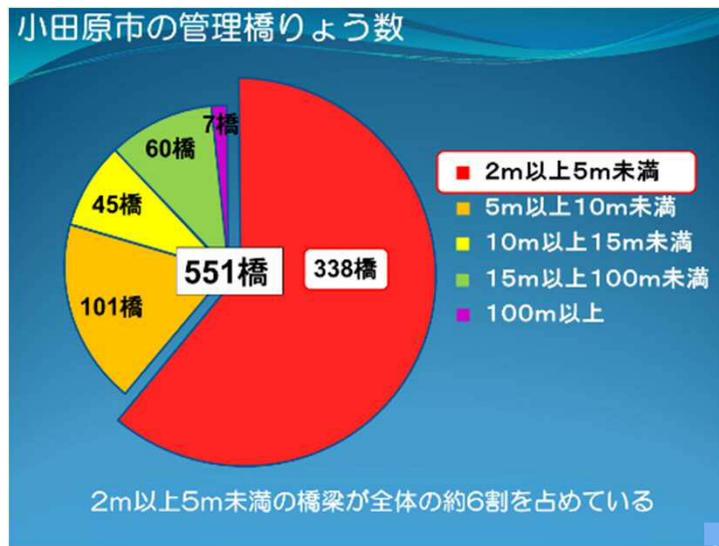
※一部橋梁で実施している地公体を含む。

2. コスト縮減、創意工夫(直営点検)

資料⑦

○小田原市で実施している直営点検の事例。

直営点検の取り組み事例(小田原市)



ICTを活用した 点検入力システムの導入の検討



点検に必要な知識及び技能の習得

職員の知識及び技能の習得

- ・国土交通省主催の道路構造物管理実務者（橋梁研修Ⅰ,Ⅱ）研修に参加
- ・神奈川県メンテナンス会議主催の橋梁点検講習会に参加
- ・外部から講師を呼んでの勉強会の開催



(勉強会の外部講師：東京大学大学院 特任研究員)

費用の削減

5年間の点検費用(金額はイメージ)



H28第1回神奈川県道路メンテナンス会議資料より
小田原市建設部道水路整備課 TEL0465-33-1645

2. コスト縮減、創意工夫(直営点検、橋梁合同点検)

資料⑦

○千葉県で実施している橋梁合同点検の事例。

直轄職員と地公体職員による橋梁合同点検の実施(千葉県)

◎橋梁合同点検の実施

市町村の道路管理実務者の技術力向上を目的として、平成28年度以降に橋梁点検を実施予定の8市町村において橋梁点検実習を実施

【日 時】平成28年2月3日(水)～5日(金)

【点検橋梁数】8橋 (橋長15m未満の小規模な橋梁)

【対象市町村】8市町村 (野田市、鎌ヶ谷市、栄町、富里市、山武市、大網白里市、長生村、御宿町)

【参加人数】 2月3日(水)...千葉国道2名、県2名、野田市、鎌ヶ谷市
2月4日(木)...千葉国道2名、県3名、栄町、富里市、山武市
2月5日(金)...千葉国道2名、県3名、大網白里市、長生村、御宿町

【研修講師】千葉国道事務所:副所長、道路構造保全官(2名)、千葉県:道路整備課

【実習概要】近接目視による橋梁点検を実施し、健全性の診断を行った



近接目視による点検状況

H28第1回千葉県道路メンテナンス会議資料より
千葉国道事務所 管理第二課 TEL 043-287-0315

3. メンテナンスの必要性を伝える活動(橋梁点検学習会)

資料⑦

○橋梁等の維持修繕の大切さを現地点検学習会などを開催し理解・協働を図る。

夏休みをねらい、親子学習会を実施。県内外から多数の応募。

親子橋梁点検学習会を開催 ＜橋の健康診断を体験して頂きました＞

平成28年8月21日(日)、国道16号西大宮バイパス指扇高架橋において、「親子橋梁点検学習会」を午前・午後の2回開催し、県内外からあわせて20組40名の親子に参加して頂き、『橋の健康診断』を体験して頂きました。
健康診断に先立ち、パネルを用いて、橋梁の老朽化の現状と老朽化対策の取り組み、橋梁の損傷原因等について説明を行い、ご理解を頂きました。
その後、橋脚をハンマーで叩いて音の違いを聴き分けたり、高所作業車で橋の裏側に近づきひび割れがないか、塗装が剥がれていないかを確認したり、ポールカメラで橋の裏側の狭い箇所をモニターで確認等をし、橋の診察結果をとりまとめて頂きました。



パネルを使って、橋梁の損傷原因を説明



ハンマーで柱を叩いて音の違いを確認



高所作業車に乗って、橋の裏側を点検



ひび割れや、塗装の剥がれを間近で確認

■小中学生の主な感想

○橋に健康診断、修理が必要だということを初めて知りました。
○普段は通るだけでも、実はひび割れたり、欠けたりしてしまい、放っておくと大変な事になってしまうので、そうならないように点検が必要だと思いました。

■保護者様の主な感想

○人の手・目による地道な確認作業が基本となつて、様々な機械が使われていることが良く分かりました。安全は最終的に人そのものが対応しないと大きな事故に繋がる危険性も分かりました。縁の下の力持ちはいたるところにいて、そのおかげで安心して生活できるんですね。
○子供より自分が楽しんで参加させて頂きました。メンテナンスがあるから日常の安全が保持出来るということを子供、大人も改めて認識する必要があると強く感じました。
○小学生に分かりやすく、いろいろな質問丁寧な回答を頂き、子供の良い勉強になりました。

橋の健康を診断
西区親子ら20人が点検体験

国土交通省関東地方整備局 老朽化しており、対策が喫緊は21日、さいたま市西区の指扇高架橋で小中学生の保護者を対象とした「親子橋梁(きょうりょう)点検学習会」を行い、参加した約40人が橋のひび割れを点検するなど、熱心に橋を点検した。高度経済成長期に整備された道路や橋は近年、集中して

野口康雄君(11)は「打音診察で音の違いがはっきり分かって驚いた」と話した。関東地方整備局大宮国道事務所相沢副所長は「橋を長く大切に使うことで、環境保護につながる。今日の体験で、少しでも私たちの仕事に興味を持ってもらえるとうれしい」と話した。

(鈴木貴太)

埼玉新聞 H28.8.24

埼玉県道路メンテナンス会議
大宮国道事務所 管理第二課 TEL048-669-1200(代)

3. メンテナンスの必要性を伝える活動(橋梁点検学習会)

資料⑦

- 土木を専攻している大学生を対象とした橋梁点検学習会を開催。
- 将来の土木技術者に高度な実務を体験してもらうことにより、メンテナンスの重要性を理解してもらう。

～大学生を対象とした橋梁点検学習会の開催～

土木を専攻している学生を対象に、道路インフラの老朽化の現状や対策の必要性、維持・管理の大切さに気づいてもらうため、橋梁点検講習や実際の橋梁で点検作業が体験できる橋梁点検学習会を開催

○日時:平成28年9月20日(火) 13時40分～16時30分

○対象:前橋工科大学の学生(約20名)

○内容:

- (1)点検実習
((株)ネクスコ東日本エンジニアリング(高崎市矢中町21-2))
点検に必要な知識を習得するための講習及び実習
- (2)現場実習
(上佐野高架橋(国道17号(高崎市上佐野町))
直接現地で点検作業を体験する現場点検学習

○橋梁点検学習会後のアンケート結果

- ・授業やインターシップで学んだ内容を実際に目にして理解を深める事が出来た。
 - ・打音検査や磁粉探傷試験等の実際の点検が印象に残った。
 - ・定期点検がいかに大事かということを改めて思い知った。
 - ・ドローンなどの無人機やタブレット端末を有効利用出来ないか。
 - ・老朽化を予測して、早めの措置を実施するのが良いと思う。
 - ・点検・措置の技術、知識を学んでいきたいと思った。
- 等の意見がみられた。

群馬県道路メンテナンス会議
茨城県道路メンテナンス会議
栃木県道路メンテナンス会議
千葉県道路メンテナンス会議

協 県メンテ
大 大学生25人が体験
橋 梁の点検学習を開催

群馬県メンテナンス(加)真鍮な眼差しで説いた。その後、国道17号上にあるテクニカル・ト
協 協会(会長・桑原正明)を聞いた。同協会で、佐野高架橋に移動し、点
国 国土交通省高崎河川国道 大学生を招いて学習会を 検作業を実際に体験する
事 事務所長)は20日、前橋 開催するのは今回が初め 現場点検学習を行った。
工 科大学の学生を招いて 講義では、同社の佐藤
橋 梁の点検学習会を開催 学術会は、ネクスコ東 孝上席専門員(橋梁担当
した。当日は、前橋工科 日本エンジニアリング 当 氏が橋梁の形式セ
大 学工学部社会環境工学(高崎市のテクニカル 当 時の道眼すへきボ
科 の3年生や大学院 トレーニングセンター)やネクスコ東日本工 組
生、土倉泰教授・工学博 で、点検に必要な知識を シニアリング実務に 組
士 士ら約25人が参加。この 習得するために講義や実 行している研修の取り組
ら ち女子学生は9人が参 習などの点検実習を受け みを方法を説明。同社
さ ぎの点検実習を受け

を点検ハンマー(叩 現場では、鋼部材の電
てた。鋼部材の電 鋼部材の電
の劣化や鉄筋の探査、ク ラックゲージを使ってコ
ンクリートひび割れ幅の 計測を行った。
土倉教授は「大学の講 義では真を使用するこ
とが多い。実際に体験し て触れられるのは非常に
貴重な体験でありがた い」と話した。

群馬建設新聞 H28.9.24

群馬県の他に、茨城県、栃木県、長野県、千葉県(高専)で実績あり

3. メンテナンスの必要性を伝える活動（地域一体型）

資料⑦

○地域から親しまれている橋梁等を用いて、地域一体となった取り組みを開催し、長く大事に使うことの大切さを伝える。

国道1号 日本橋(東京都)の事例

国道4号 千住大橋(東京都)の事例



▲洗う会の様子

名橋「日本橋」保存会によって毎年7月の第四日曜日に行われています。1971(昭和46)年より毎年行われているこの行事には、地元の方々だけでなく、毎年次山の方々が日本橋に集まり、日頃の感謝を込めて日本橋をきれいにします。

▼日本橋北詰



▲慰労会の様子

第三章 日本橋を愛する様々な取り組み

名橋「日本橋」保存会によって毎年7月の第四日曜日に行われています。1971(昭和46)年より毎年行われているこの行事には、地元の方々だけでなく、毎年次山の方々が日本橋に集まり、日頃の感謝を込めて日本橋をきれいにします。

1999(平成11)年にドイツで発見されたこの絵巻は、1805(文化2)年頃の日本橋の姿を伝える大変貴重なものです。

2009(平成21)年に東京メトロ三越前駅地下鉄コンコースに複製が展示されました。

日本橋架橋百年祭

平成23年10月30日(日)、日本橋開橋100周年を記念し、日本橋架橋百年祭が行われました。祭では、岸上米蔵さん(100歳)夫婦三代による「夫婦三代渡り初め」などが行われ、100周年を祝いました。「夫婦三代渡り初め」は、橋の完成を祝い、長く橋が使われるよう、行われるものです。

日本橋船着場

100周年に合わせて、平成23年4月3日、日本橋南東橋詰(滝の広場)に隣接し、船着場が完成しました。船着場は、同年7月に日本橋にゆかりのある歌舞伎役者の坂田藤十郎さんと市川團十郎さんからとって「(双十郎)河岸」と名づけられました。



活動 13 地域の宝 千住大橋の米寿(88歳)を祝う
技術力を結集し、橋の長寿命化につとめ、次世代に残していく

- 江戸時代、徳川家康によって作られた千住大橋は、関東大震災後に木製から鉄橋にかわり昨年12月に鉄橋の完成から88年を迎えた
- 米寿(88歳)を迎えたことを祝うイベントを開催し、地元住民も多数参加
- 今後も地域ぐるみで維持管理を継続

イベントの様子

- 国の関係者や地元住民など約300人が集まり、長寿を祝う式典を開催
- 維持管理の取組の説明に対し、参加者からは「点検の重要さもよく分かった」という声



長寿を祝う会



イベント集合写真



舟で渡る千住大橋

適切なメンテナンスの継続

補修工事や定期点検が重ねられ、地元住民も橋の清掃など美化活動に取り組んでいる






1923年 関東大震災 1927年 0歳 1945年 22歳 1946年 23歳 1977年 54歳 1978年 55歳 2015年 88歳



東京国道事務所

3. メンテナンスの必要性を伝える活動(パネル展)

資料⑦

- パネル展示は、多様・多数の国民向けの効果的な広報
- 多様な公共施設へ展開を拡大し、老朽化対策についての理解を促進
- 今後は地域や身近なインフラに関する情報を地域に伝えること重要



<市役所>



<駅>



<老朽化対策パネル展・日本橋地下通路>



<ショッピングモール>

4. 多様主体との連携

資料⑦

○国民と協働する仕組みを構築することで、道路施設の状況を把握し重大被害を未然に防ぎ、予防保全を推進している。

11

市民と一緒に考え、取り組む街

スマートフォンを活用し市民がインフラの不具合を通報・迅速に対応



- 市民がスマートフォン等を通じて、地域の課題に関する写真や位置情報付の状況をレポートすることで、市民と行政、市民と市民の間で課題を共有し、合理的、効率的に解決
- ちばレポを使うことで、街を見る意識が変化
- “市民のちから”で、街がよくなる

サービスイメージ



アプリのイメージ





市民がスマートフォン等を通じて、地域の課題に関する状況をレポートすることで、市民と行政、市民と市民の間で課題を共有し、合理的、効率的に解決できる。

ちば市民協働レポート(ちばレポ)運用事務局
千葉市市民局市民自治推進部広報広聴課内 TEL043-245-5294



写真2 ●道路の不具合などの課題を写真で撮影し報告できる

写真3 ●市役所側の対応状況を市民レポーター本人に通知。Webサイトでも公開する



写真4 ●課題の発生状況は地図上にマッピングされる

1. 技術力向上、点検促進の取り組み(研修・講習会)

参考

資料⑦

○橋梁点検だけではなく、ニーズに合わせた**構造物の補修**に関する講習会も実施。

道路メンテナンス研修(福井県道路メンテナンス会議)

- 道路インフラの長寿命化を進めていく上で重要な点検技術の向上や補修技術の継承に向けた取組
- 道路施設の点検や補修に特化した研修を実施
- 外部講師(学識経験者や専門協会)を招いて専門的な研修を実施
- 市町が必要とする研修を実施

平成28年度福井県道路メンテナンス研修計画

実施	第1回 平成28年4月26日・27日	第2回 平成28年7月20日・21日	第3回 平成28年8月24日	第4回 平成28年9月予定	第5回 平成28年10月予定
内容	・福井県橋梁点検マニュアル ・H27定期点検結果報告会	・現場研修会 (県・市町管理橋の実橋で点検研修)	・鋼橋の点検と補修 に関する研修	・トンネル補修工事 に関する研修	・北陸自動車道の 大規模更新事業に関する研修
講師	・道路保全課 ・建設技術公社	・国土交通省 ・福井県道路保全課 ・福井県建設技術公社	(一社)日本橋梁建設協会	・学識経験者 ・国土交通省	・NEXCO中日本金沢支社
備考	・福井市で開催(59名参加) ・敦賀市で開催(30名参加)	・越前町、小浜市で開催	・坂井市で開催	・国道8号のトンネル補修工事現場で開催予定	・北陸道の日野川橋で実施される老朽化したコンクリート床版の取替え工事



福井県道路メンテナンス会議
福井河川国道事務所道路管理課 TEL:0776-35-2661
福井県土木部道路保全課 TEL:0776-20-0476

4. 多様主体との連携①

参考

資料⑦

○大学と連携し、座学・演習・現場実習の集中的な履修により「インフラメンテナンス技術者」を養成

インフラを支える活動

大学の連携によりメンテナンス技術者養成

インフラメンテナンスの技術者養成講座

山口大学
社会基盤メンテナンスエキスパート(ME山口)事務局
社会建設工学科 TEL 0836-85-9300
<http://me.civil.yamaguchi-u.ac.jp/index.html>



舞鶴高専
社会基盤メンテナンス教育センター(iMec)
TEL 0773-82-8877
<http://www.maizuru-ct.ac.jp/>



長岡技術科学大学
Nagaoka University of Technology



長岡技術科学大学
インフラ再生技術者育成新潟地域協議会
TEL:0258-47-1611
<http://cds.nagaokaut.ac.jp/me/index.html>



国立大学法人
岐阜大学工学部附属
インフラマネジメント技術研究センター



長崎大学インフラ長寿命化センター
道守養成ユニット
TEL 095-819-2880
<https://michimori.net/lesson.html>



通報システム (スマホ)



愛媛大学
社会連携支援部社会連携課
社会連携拠点チーム
TEL:089-927-8974
<http://cdmir.jp/lectureship/>



- 産学官が連携し、行政と建設業界双方の技術力向上
- 毎日朝から夕方まで集中的な履修を経て、着実に専門的スキルアップ
- 各大学における平成27年末時点の受講者数は、累計1300名以上

仕組み概要

養成講座

座学

演習

フィールド実習

※大学により、1週間～4週間の短期集中講座

認定試験

カリキュラム (岐阜大学の例)

- 16コマ=1科目で、以下の5科目から構成
 - ・ 橋梁の設計・トンネル
 - ・ 橋梁の維持管理
 - ・ 地盤と斜面
 - ・ 土構造物と舗装・水道・河川構造物
 - ・ インフラマネジメント
- 1日4コマで20日間
- 座学、演習、フィールド実習などがバランス良く配置され、受講者の技術力と土木技術者の意識を向上させるカリキュラム
- 履修証明プログラムとして、修了者に対し法に基づき履修証明書を交付

社会資本の老朽化対策情報ポータルサイト
<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/maintenance/other/goodpractice.html>

4. 多様主体との連携②

参考

資料⑦

○国民と協働する仕組みを構築することで、道路施設の状況を把握し重大被害を未然に防ぎ、予防保全を推進している。

■橋梁点検サポーター事業

膨大な数になっていく老朽橋梁の維持管理を、住民の方にもサポートしていただく
 福島県では、近隣の住民の方が、定期的に橋梁の状況把握を行い、目視点検により変状を早期に発見し、報告してもらい橋梁点検サポーター制度を導入しました。

□目的

定期点検の間の期間(4年間)を補完し、橋梁の不具合箇所を早期に発見・修繕することで、LCCの観点からの長寿命化を実現する。
 また、住民の意識啓発にもつなげる。



点検状況写真

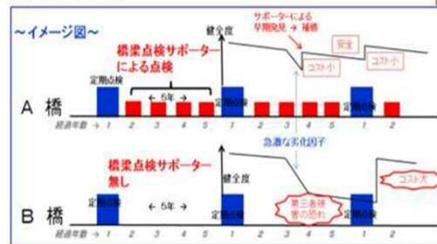


□成果

右図の様式を提出してもらう。
 (成果例)排水の詰まりに気づいたことで、劣化の原因を早期に取り除くことができ、維持管理費を最小限に抑えられた。

□概要

H27登録人数・・・県内で6人
 資格 技術士(建設)、技術士補(建設)、
 1級・2級土木施工管理技士、
 県市町村の技術職員経験者
 業務 150橋程度まで(1ヶ月標準25橋)
 期間 最大6ヶ月



技術に関して知識のある市民が、定期的に橋梁を目視点検している。
 排水施設の不具合等を早期に発見することで劣化原因を除去でき、予防保全及び維持管理費を抑えることにつながっている

H28第1回福島県メンテナンス会議資料
 福島県橋梁点検サポーター事業
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41330a/kyouryoutenken.html>

福島県県南建設事務所企画管理部管理課 TEL:0248-23-1526

点検時の着目点

【鋼橋の場合】

【コンクリート橋の場合】

損傷の事例写真

4. 多様主体との連携③

参考

資料⑦

○技術職OBを活用して、技術の継承とインフラ異常に関する速やかな情報収集を図る。



- 地域の道路や橋梁を地域で見守る、市民や技術職OB参加のボランティア活動
- [長崎県道路見守りサポーター／岐阜県メンテナンスサポーター]
- 講習受講により道路の見守り活動に必要な知識を得た市民から、普段利用している身近な道路の舗装、側溝、橋などの異状について情報提供を受ける
- [ひょうご橋守隊]
- 管理者が計画的な補修や架替えを行うまでの間、市町管理の橋梁の損傷状況の経過観察を無償で実施



社会資本の老朽化対策情報ポータルサイト
<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/maintenance/other/goodpractice.html>
 長崎大学インフラ長寿命化センター 道守養成ユニット TEL 095-819-2880
<https://michimori.net/lesson.html>
 岐阜県メンテナンスサポーター 社会基盤メンテナンスサポーター
 県土整備部 道路維持課 TEL: 路政係058-272-8572、維持管理係058-272-8535、
 安全防災係058-272-8576、市町村道係058-272-8556
http://www.pref.gifu.lg.jp/shakai-kiban/doro/doro-iji/11657/index_7741.html
 ひょうご橋守隊:(公財)兵庫県まちづくり技術センター TEL:078-367-1230(代表)
<https://www.hyogo-ctc.or.jp/index.php>

点検業務に民間OBらを雇用！～掛川市～

- 橋梁点検のために橋梁メーカーOBを点検業務員として雇用。
- 点検業務の他、研修に派遣し職員の能力向上を図る取組をスタート。

○コンクリート技士、プレストレストコンクリート技士、1級土木施工管理技士、橋梁点検技術研修終了証を有する橋梁メーカーの技術系OBを採用、市役所OBからも1人採用し、計2人の点検業務員を雇用

○職員の能力アップにも力を入れる。国や県が実施する点検研修などには積極的に職員を派遣。個々のレベルアップを図る。



建設新聞 H26.10.29

静岡県道路メンテナンス会議

点検業務に精通したOBを増員！～島田市～

- 土木技術に精通した市職員OBを採用。
- 点検要員としてだけでなく、更新の指導役としても期待。
- 専門知識を持った嘱託職員を増員予定。

○点検技術を高め、伝えて行くにはOBの存在が頼りになる。
 ○橋や道路の維持管理の大切さをもっと市民に知ってもらう努力も必要。



静岡新聞 H27.3.19

静岡県道路メンテナンス会議

静岡国道事務所総括保全対策官 TEL:054-250-8908
 静岡県交通基盤部道路局道路整備課 TEL:054-221-3018

パネルイメージ(H28下期パネル展)

資料⑦

平成28年下期の老朽化対策に関するパネル展を以下のとおり開催しますのでパネル作成及び展示スペースのご協力をお願いします。

パネル作成枚数: 10枚

展示パネル内容: 各都県(1都8県)の取組み事例の紹介(各都県につき1枚)

パネル展示期間: 2ヶ月間(12月~1月頃)を想定(リレーパネル展形式も可)

パネル展示場所: 屋内(道の駅、公共施設内等)、屋外(公園、他イベントと同時開催等)のどちらでも可

パネル作成イメージ

〇〇県の老朽化対策

〇〇国道事務所管内の橋梁修繕
□□橋は、………のため、……工法により予防保全を実施し、長寿命化を図っています。

写真

写真

〇〇市の地域住民との取組み
〇〇市では、市のシンボルとなっている△△橋を……により、地域住民と協力して長く大事に使用するための取組みを実施しています。

写真

写真

展示場所イメージ

(屋内)



(屋外)

